

松井研究室の研究活動

松井豊(人間系教授)

これまで研究してきた研究テーマ

<対人心理学>

- 援助行動 援助行動の状況対応モデル
- 化粧 化粧の心理的効用モデル
- 恋愛と魅力 恋愛行動の5段階説・コミットメントの性差仮説
恋愛スキル・トレーニング

<臨床社会心理学>

- 広域災害 避難所リーダーの心理・地域防災体制の構築
防災啓発訓練の開発
- 悲嘆 災害・事故遺族の悲嘆過程
一般遺族の悲嘆調査
- 惨事ストレス **消防職員の惨事ストレスケア体制構築**
ジャーナリストの惨事ストレス
災害時の看護・介護職
企業と公務員のBCP
ドクターヘリ・カー乗務者のストレス

<社会問題>

- 社会的信念 血液型ステレオタイプ
不思議現象を信じる心理
社会的ステレオタイプ
- 性的逸脱 『援助交際』の心理的背景
買春男性の心理
- 社会病理 ひきこもりの類型
自殺とネット
ニート
- <その他> 対人関係の発達2側面仮説
CCPT

東日本大震災に関する活動

1 研究活動

- 1-1 被災看護師調査(科研費)
- 1-2 派遣消防職員調査(科研費)
- 1-3 被災地新聞記者調査(科研費)
- 1-4 南関東地区住民への心理的影響調査(個人研究費)
- 1-5 被災公務員調査(筑波大学助成)
- 1-6 被災消防職員・派遣消防職員調査(総務省)

2 各種支援活動

- 2-1 東京消防庁の派遣職員へのケア(東京消防庁からの依頼)
- 2-2 被災地消防職員・消防団員へのケア(総務省消防庁からの依頼)
- 2-3 被災保育所への支援(日本保育サービス社からの依頼)
- 2-4 被災地消防職員応援プロジェクト(筑波大学・日本心理学会助成)
- 2-5 被災看護職員に衣類を送ろうプロジェクト

3 情報提供

- 3-1 日本心理学会の掲示板たちあげ協力
<http://www.psych.or.jp/jishinjoho/index.html>
- 3-2 惨事ストレスのケアのための各種文書公開
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/~ymatsui/index.html>
- 3-3 携帯版・消防職員のストレスチェックリスト無料公開
<http://fishbowlindex.com/ganbare/>
- 3-4 避難所運営のヒント集、被災地での調査活動に関する留意点の公開
<http://psych.educa.nagoya-u.ac.jp/jishin/>



東日本大震災の各種職業人のストレス状態の調査結果

(日本グループダイナミクス学会大会、2013)

東日本大震災の複数のストレス調査の結果を再分析し、ストレス反応の基本症状が職種や立場を越えて共通しているかを分析。外傷性ストレス反応の測度はIES-R(改訂版出来事インパクト尺度)日本語版(Asukai et al.2002)のハイリスク率(25点以上)を算出。

表 各調査のIES-Rハイリスク率

職種	地域	調査時期	リスク率	文献
消防	被災地外	11年6-7月	5.1%	畑中他(2011)
看護	岩手・宮城	11年8-9月	33.7%	山崎・小浜(2012)
	福島	12年9-11月	38.4%	
一般	南関東	11年9月	13.0%	松井・兪(2011)
		12年3月	14.0%	山本他(2012)
報道	被災地	12年2-3月	22.4%	福岡他(2012a)
	被災地外	12年6-8月	12.7%	
公務員	宮城	12年8月	26.8%	桑原他(2012)
企業	被災地	12年8月	20.7%	高橋他(2012)

被災地と被災地外(派遣)でストレス反応に大きな差(量反応関係)時間経過で反応が減衰することがない

被災地消防職員応援プロジェクト

東日本大震災で被災した消防本部職員や消防団員のストレスケアのための支援方法:

- ①A市消防本部(岩手県)の消防職員(東京消防庁惨事ストレス部会有志)による傾聴ボランティアの支援。ボランティアは、東京消防庁で惨事ストレスの研修を受けた支援デブリーファーが中心で、臨床心理士2名・精神衛生保健士1名を含む。
- ②B消防署(宮城県)への継続的個別面談の実施。
- ③消防職員・消防団員のストレスケアを行った専門家への聞き取り調査

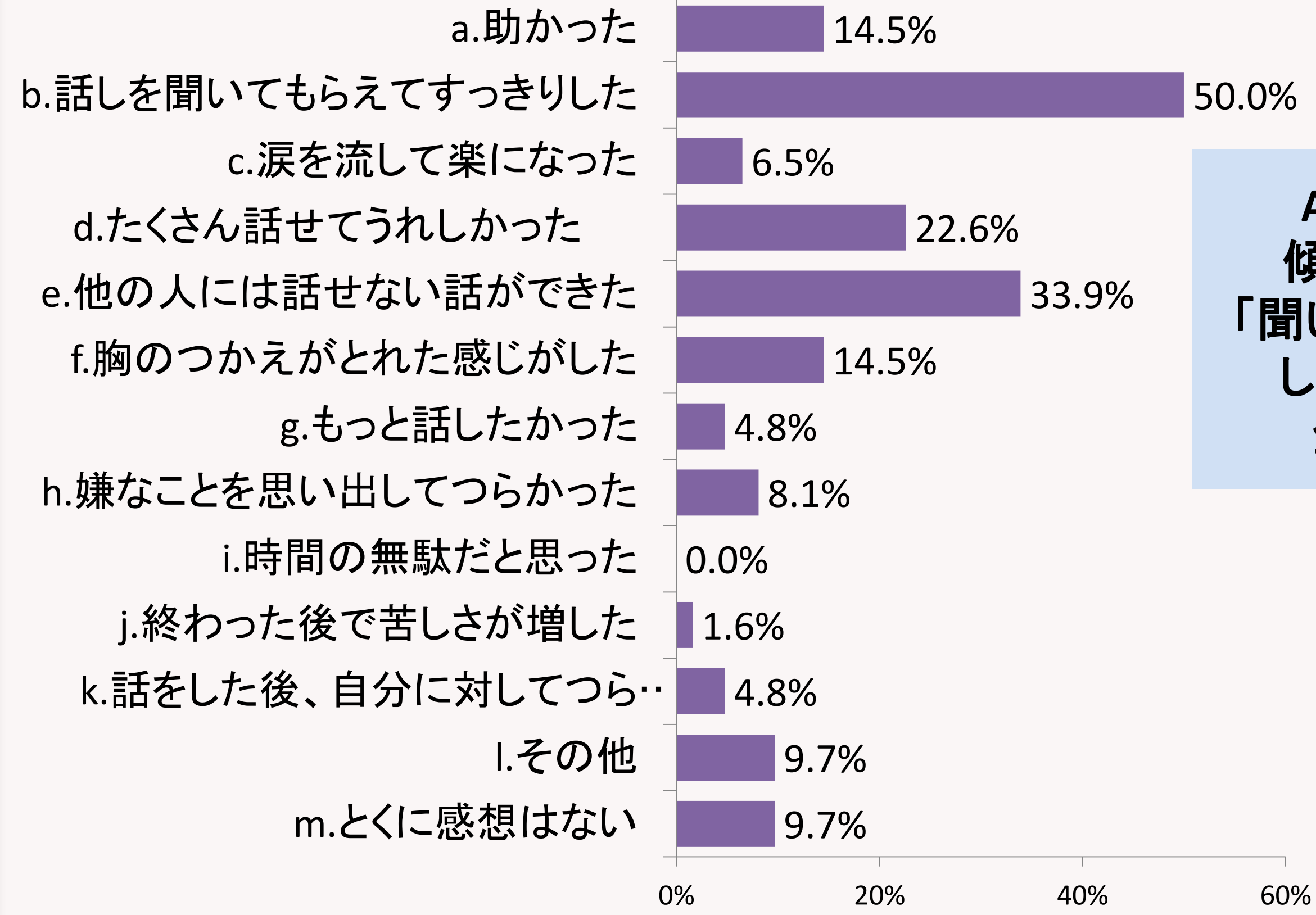
結果:

①A市消防本部 応援プロジェクト(傾聴ボランティア)

2011年5月から2012年1月まで計6回

7月中旬から8月初旬にかけて、参加者に感想や今後の希望に関する調査を実施。配布数110、有効回答62名。

問 今回の活動に関して、感想をお聞かせ下さい。以下の選択肢の中で、あなたの感想にあうものがあれば、○をつけてください(○はいくつでも)。()内の単位%



A市本部における傾聴ボランティアは「聞いてもらえてすっきりした」が半数と多く、全体に高い評価

○自由記述から*当地区では他人に弱みを見せない、辛いことを辛抱することが美德とされる土地柄ですので、他人に辛いことを話すのが苦手だと思います。でも、同業者が話を聞いていただき、肩から力がぬけるようでした。後輩へも話を聞いてやらなければと思いました。

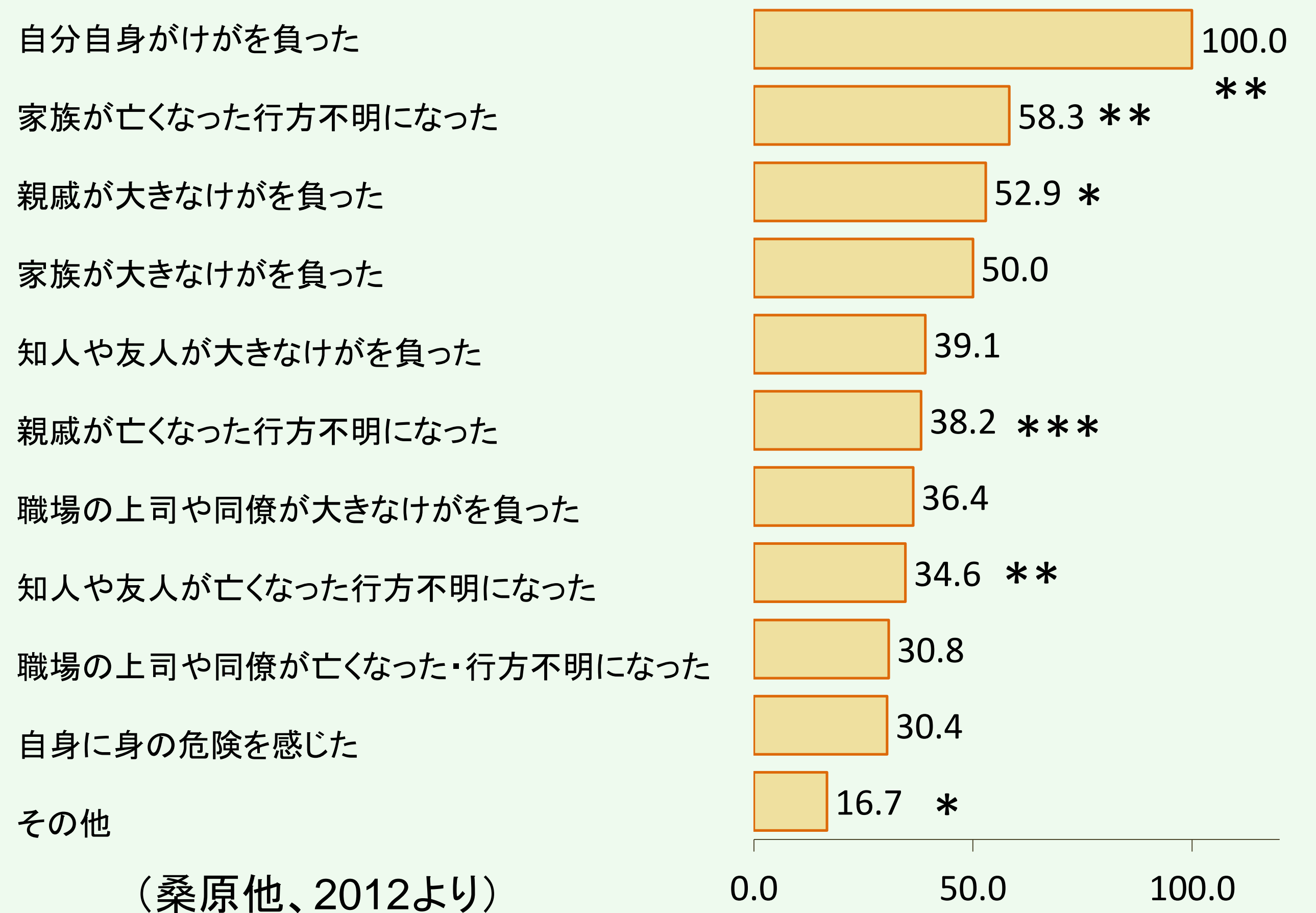
②B消防署への個別面談

総務省の介入(2011年5月30日)をきっかけに、8月8~9日、2012年2月12日臨床心理士、精神保健福祉士などで、個別面談(カウンセリング)。

被災自治体職員のストレス調査

- ・震災1年半後の被災自治体職員の惨事ストレスの把握とストレス対策への提言
- ・宮城県の3自治体職員975名。震災前に採用され震災時にも当該自治体職員として業務を行っていた615名(男性391名 女性217名 不明7名)。
- ・2012年7月~8月に、各自治体の担当者から個別配布、個別郵送回収。

被災自治体職員の被害別のIES-Rハイリスク者の比率(%)



(桑原他、2012より)

2012.10.28 河北新報 (第三種郵便物認可) 【新聞定価(消費税込み)】朝夕刊14月3.925円、朝刊14月



被災自治体職員は、1年半後もストレスを多く残し(IESRのハイリスク率26.8%)、地震や周囲の被害、多忙な業務が、ストレスを悪化させていた。

→自治体も企業も
ストレス対策を含んだBCP(事業継続計画)を!

←被災自治体職員調査の結果を取り上げてくれた河北新報の記事(2012年10月28日)